

行政視察報告書

委員会名（会派名）	産業建設常任委員会	報告者	小林、山崎
視察日程	令和4年7月13日～7月15日		
	① 富山県 富山市 公共交通（LRT）について		
	② 国土交通省 北陸地方整備局 千曲川河川事務所 千曲川緊急治水対策プロジェクト等について		
参加議員（委員）	小林 由明、田澤 信行、土田 昇、タナカ・キン、山崎 雅男、斎藤 信行		
	<p>【調査目的・内容】 富山市のコンパクトシティプラスネットワークについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業内容のレク ・LRT への乗車体験 <p>【所感】 現在燕市は立地適正化計画を策定し、コンパクトシティプラスネットワークの実現に取り組んでいる。コンパクトシティプラスネットワークの目指すところは、都市機能・人口の密度の維持向上を図ることにより、都市経営の負担軽減、生活利便性の向上、密度の経済維持などを導き、それによる持続性の高い都市構造を構築することである。</p> <p>燕市はこれまで空地空き家対策や創業支援などに注力し、特に市街地部（居住誘導区域など）において都市機能の誘導や集住に効果を上げてきているところであるが、今後さらにコンパクトシティ化を推進するための調査として、いち早くコンパクトシティプラスネットワークに取り組み、大きな成果をあげている富山市に伺うことになった。</p> <p>事業詳細は添付資料に譲ることとさせてもらうが、参加したすべての委員が、当該事業に対して非常に高い評価をしていた。</p> <p>富山港線のLRT化をはじめ市内公共交通の充実を進めた結果、転入超過や地価の上昇が続いているとのことであり、さらに新幹線開後には、それらの加速度が増すとともに、民間投資が増加しているとのことであった。</p> <p>① 利用者減→利便性低下→利用者減という負のスパイラルを絶つためには大幅な利便性向上を先行的におこなう必要があり、その公的施策が必要であるとのことだった。</p> <p>令和4年6月議会一般質問における、弥彦線の今後の見通しについての都市整備部長答弁によると「平成4年度の弥彦駅から東三条駅までの平均通過人員は3,990人/日であるのに対し、平成29年度は2,363人/日となっており、この25年間で約4割利用者が減少した結果となっております。利用者が減少した理由は、モータリゼーションの進展と人口減少などが影響しているものと考えておりますが、今後も人口減少が見込まれることから、利用者数などの今後の見通しは厳しくなっていくものと予想しております。」とのことだが、「弥彦線につきましては、中心市街地、さらには弥彦村、三条市などの周辺都市を連絡する極めて重要な都市の骨格をなす鉄道路線であります。</p> <p>また、駅周辺においては、立地適正化計画における都市機能誘導区域や居住誘導区域が設定されており、コンパクトシティプラスネットワークを形成する上でも重要と考えております。」との同氏答弁にもある通り弥彦線は極めて重要な公共交通であり、厳しい見通しを持ちながらそれを放置しておくわけにいかない。</p> <p>今後の燕市発展のためにも、今般の調査を踏まえ効果的な提案をおこなってまいりたい。</p> <p>○参考資料</p> <p>1、富山市都市整備事業の概要</p> <p>2、富山港線路面電車化の概要</p> <p>3、路面電車事業についてのパンフレット</p>		

【調査目的・内容】

「千曲川緊急治水対策プロジェクト」等について

【所感】**視察箇所① 長野市穂保破堤箇所**

令和元年（2019年）10月台風19号をはじめ、昭和34年・58年・平成18年等々、戦後の主な洪水として頻発する河川の氾濫から住民の生命や財産、暮らしをどう守るかが重要課題。決して目新しい考え方ではないが、中長期的流域治水と粘り強い堤防そして遊水地整備が必要で喫緊の取り組みが、信濃川水系の上流に当たる千曲川流域治水プロジェクトであり、千曲川は支川を合わせ、信濃川として新潟県の日本海に注ぐ延長367kmの日本一の大河。

事業に取り組むにあたり、上流である千曲川から信濃川、大河津分水下流まで流域一体となっており、一部に負担がかかり災害発生に繋がらないように防災・減災対策が大事であり、常に一体感を持ち連帯意識の中で整備していただきたい。

視察箇所② 立ヶ花橋（立ヶ花狭窄部）より現地説明

立ヶ花は、堤防が決壊した長野市穂保から下流に5kmほどの場所

川の幅は穂保付近が1km余りあるのに対し、立ヶ花橋の近くでは260mほどと急激に狭まっていて、決壊の一因になった可能性も指摘されている。

② 堤防決壊の一因とみられる立ヶ花狭窄部の掘削等の事業が進められている。しかし、将来的には川幅の拡張が必要であるが、近接している住民協力の理解、必要性を感じる。

視察箇所③ 上今井遊水地（大保地区堤防付近）バス車内より説明

千曲川で遊水地の設置や川幅が狭まる部分の河道掘削等を盛り込んだ緊急治水対策を発表。

洪水時の水量調整や流下能力の強化が狙いで、千曲川河川事務所管理区間において、計5カ所の遊水地を整備予定。（遊水地は洪水時に計画的に濁流をためるのが目的で、上流から新潟県内の下流まで）

遊水地の1カ所である上今井遊水地の必要性を現地説明。

用地買収取り組みにあたり、田畑と違い果樹園地区でもあり、樹木等の評価が大きいので、地権者が数百件（400～500軒？）懇切丁寧に説明に当たりたいとのことであるが、地権者から理解を示していただきたい。

流域治水プロジェクトは、中長期的視点で取り組みをまとめるものであり、事業期間や事業費は変動あり？

治水対策は、上流で対策をすると下流に流れる水の量が変わるなど相互に関連しているために長野県、上流千曲川・新潟県・下流信濃川における対策の情報共有や調整をしながら防災・減災対策を進めていただきたい。

温暖化が原因とみられる異常気象が全国各地で相次いでおり、次に襲ってくる？水害が想定範囲に収まる保証はなく、これで大丈夫という保証もない。生命と地域財産にも関わり、常に想定外も視野に入れた取り組みを私的であるが願いたい。

【視察の様子】

① 富山県 富山市



② 国土交通省 北陸地方整備局 千曲川河川事務所 (長野県 長野市)

